

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年8月14日

予報期間：8月16日～9月15日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東・西日本では期間の前半は、気温がかなり高い見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

- ・北・東日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・西日本では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報

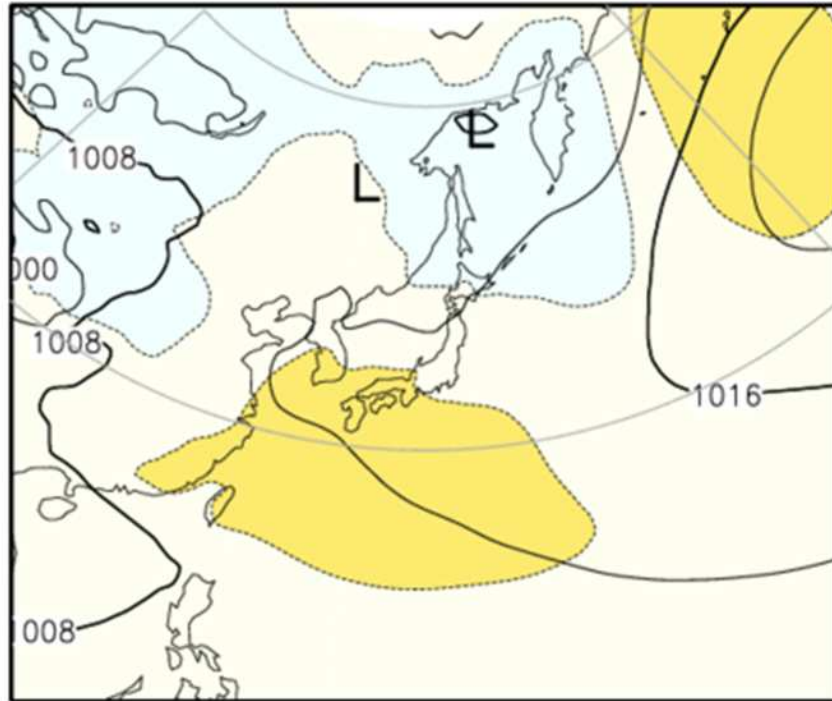
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:30:40 40:40:20	20:40:40 20:30:50	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	50:30:20 50:30:20	10:30:60 10:30:60	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	50:30:20 50:30:20	10:30:60 10:30:60	
沖縄・奄美		10:20:70	40:30:30	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	20:30:50	10:20:70
東日本	10:10:80	10:30:60	10:20:70
西日本	10:10:80	10:20:70	10:20:70
沖縄・奄美	10:30:60	10:30:60	10:30:60

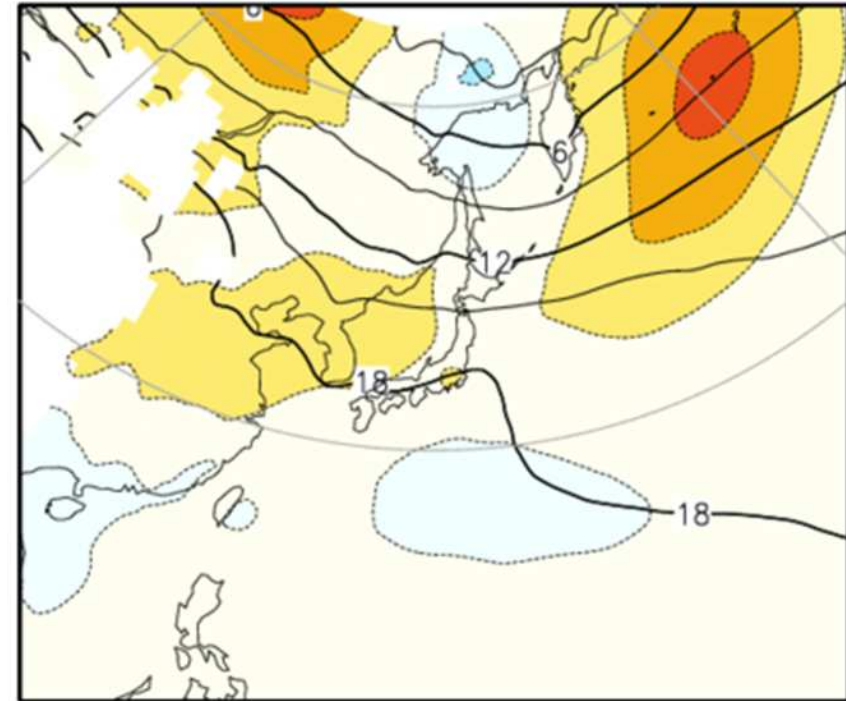
全般予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすいため、高いでしょう。北・東・西日本は期間の前半は気温がかなり高い見込みです。
- 北・東・西日本では高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は、東・西日本で少なく、北日本太平洋側で平年並か少ないでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、北日本太平洋側と東・西日本で多く、北日本日本海側で平年並か多いでしょう。

海面気圧(1か月)



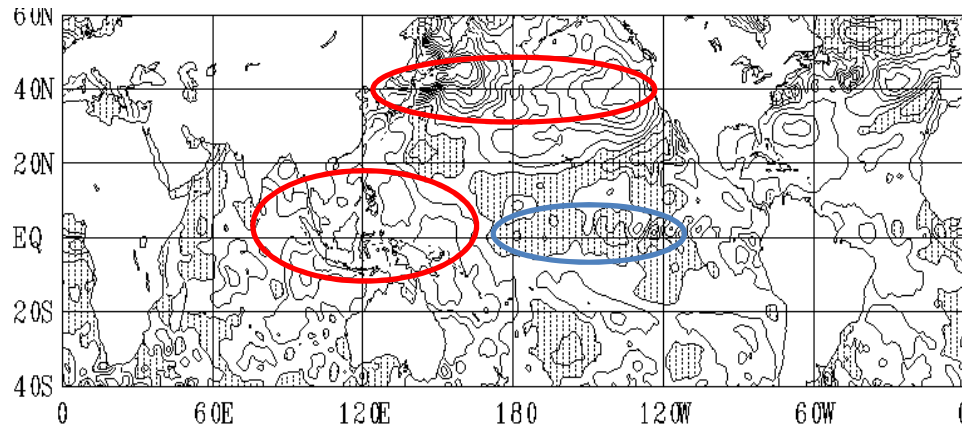
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、太平洋高気圧が日本の南東海上から東・西日本中心に張り出すと予測されています。また、北・東日本中心に移動性高気圧に覆われる時期もあるとみられ、北・東・西日本は高気圧に覆われやすいでしょう。一方、オホーツク海は低圧部となっており、北日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響を周期的に受ける見込みです。

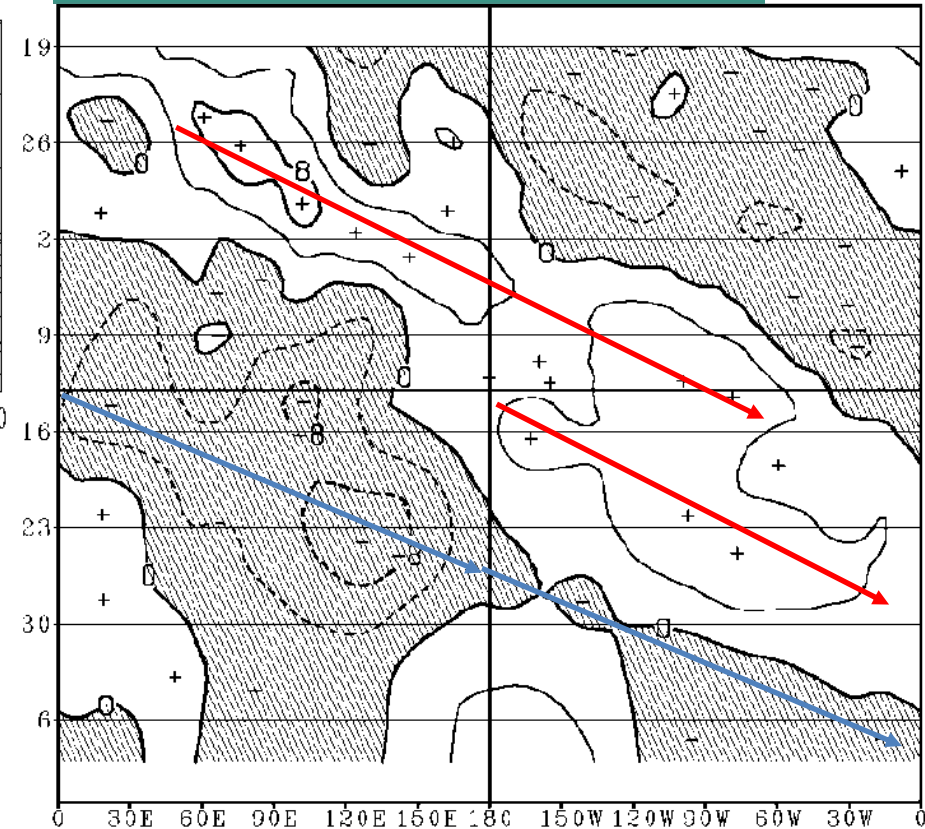
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高いと予測されています。

SST偏差



・熱帯域では、インド洋東部から太平洋西部で正偏差。一方、太平洋赤道域の中部で負偏差、日本海から北太平洋中緯度帯で広く正偏差。

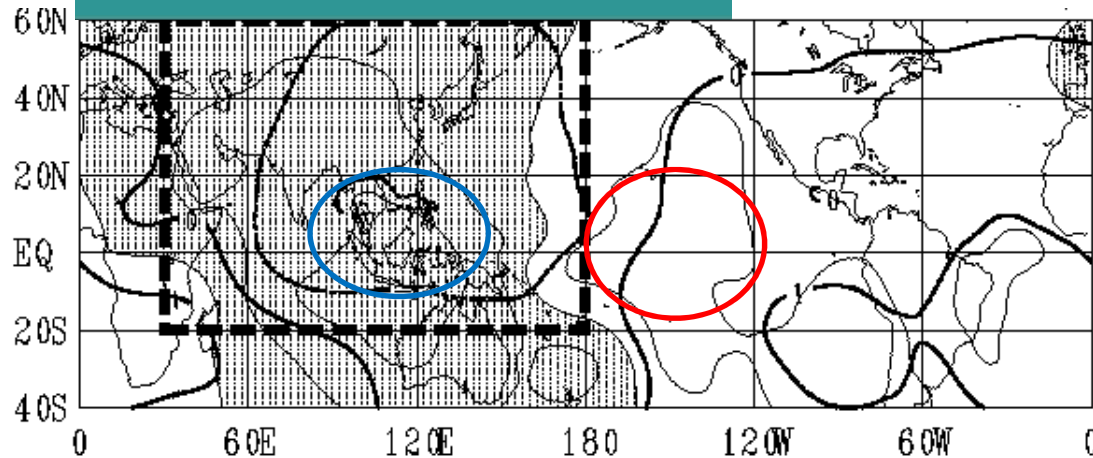
200hPa速度ポテンシャル偏差



発散偏差域(対流活発域)が、1週目から2週目にかけて、アフリカから太平洋西部に東進、その後も不明瞭ながら4週目にかけて大西洋に東進する。インド洋東部からインドネシア付近では期間を通して対流活発な状態が持続する。収束偏差域(対流不活発域)が、1週目から2週目にかけて、太平洋熱帯域の中部から大西洋に東進する。

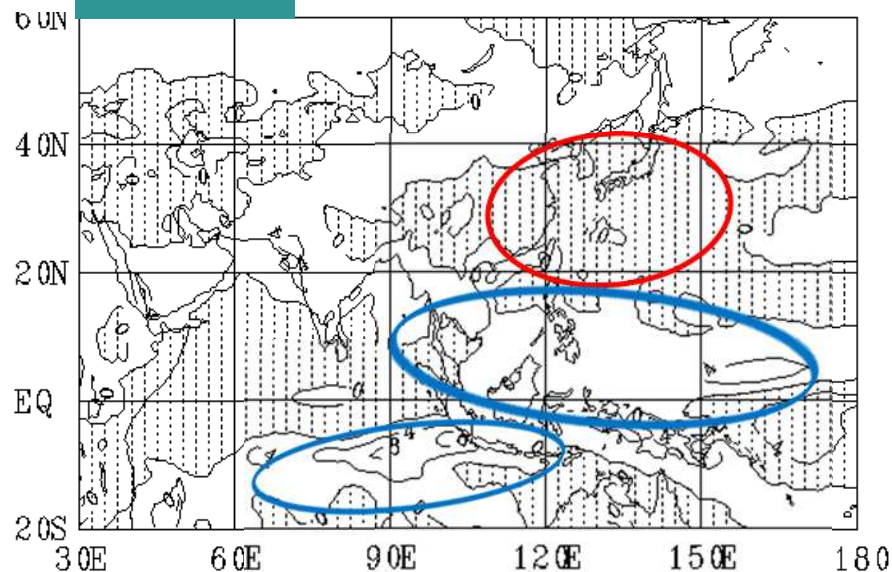
予報資料の解釈 1か月(8/16~9/12)

200hPa速度ポテンシャル



海面水温偏差の分布に対応して、インド洋東部からインドネシア付近で上層発散偏差。一方、太平洋熱帯域の中部で上層収束偏差。

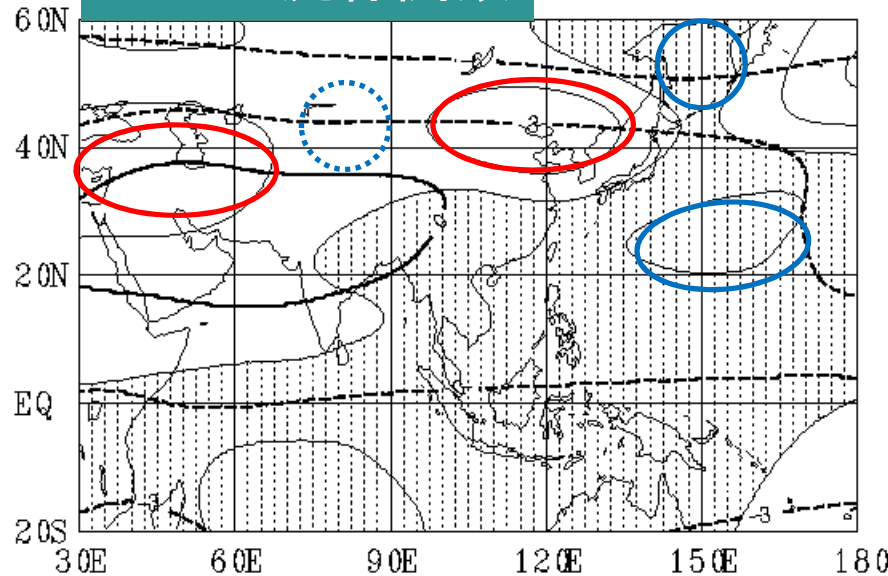
降水量



インド洋熱帯域の南東部、インドシナ半島からインドネシア、ニューギニア島の北東海上で多雨偏差。
日本付近から日本の南にかけて少雨偏差。

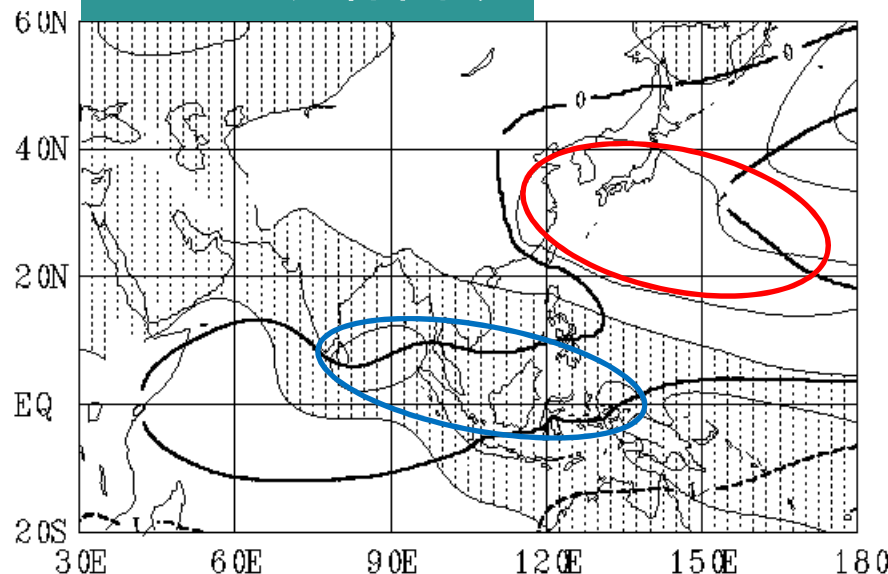
予報資料の解釈 1か月(8/16~9/12)

200hPa流線関数



ユーラシア大陸上で亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンが見られ、中国東北付近で、高気圧性循環偏差。オホーツク海で低気圧性循環偏差。平均的には、ユーラシア大陸から太平洋の中緯度帯は高気圧性循環偏差で、亜熱帯ジェット気流は北偏して流れる。日本の南では低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

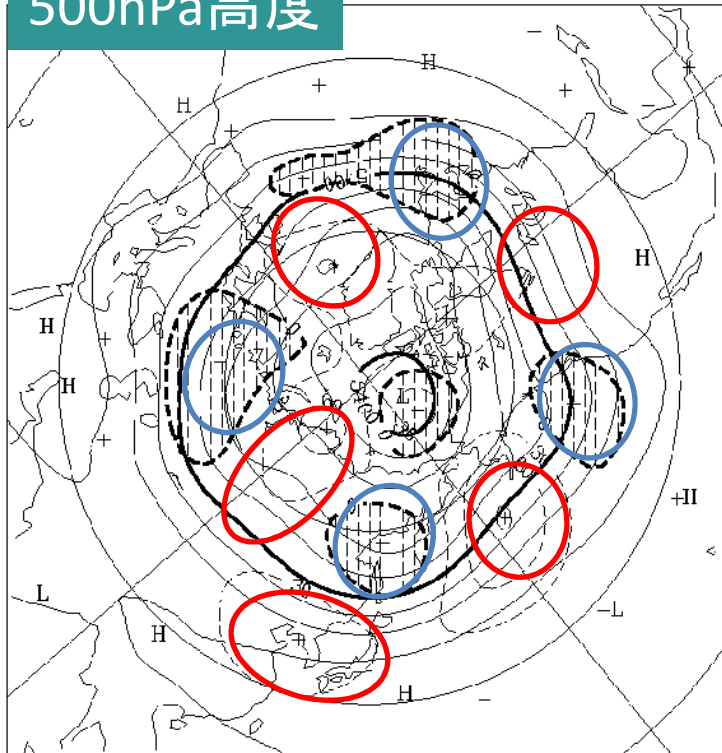


対流活動に対応して、インド洋東部からインドネシア付近にかけて低気圧性循環偏差。

北・東・西日本付近では、波東伝播の影響で強められた順圧的な高気圧性循環偏差、沖縄・奄美付近では対流活動の影響を受けて強められた高気圧性循環偏差。太平洋高気圧が日本の南で西へ張り出すとともに、日本付近を覆いやすいことを示している。

予報資料の解釈 1か月(8/16~9/12)

500hPa高度

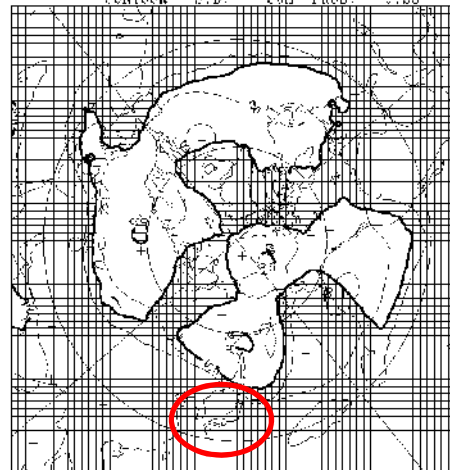
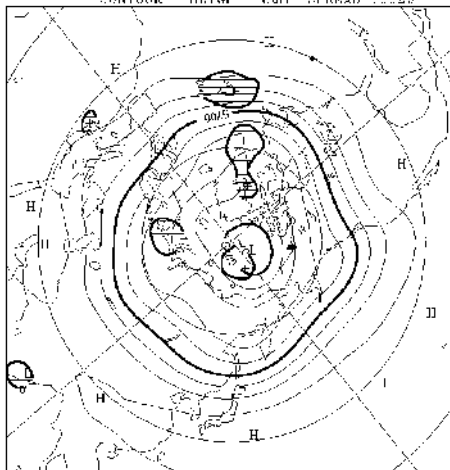


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 400m SPREAD: 1.25

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 1.25

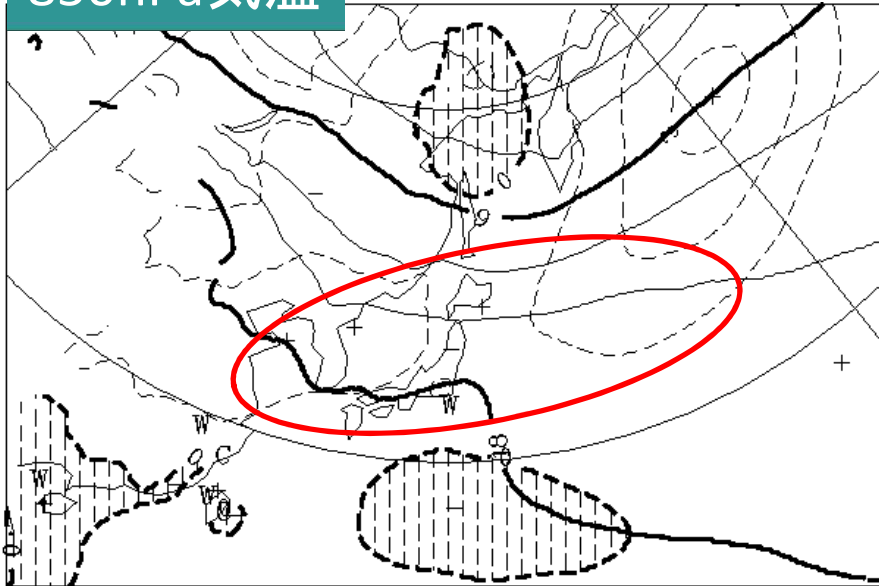


北半球は、亜熱帯ジェット気流及び寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播が活発で、北緯60度帯で波列パターンが卓越する。朝鮮半島付近の正偏差とオホーツク海付近の負偏差は、波束伝播により期間前半ともに強化される。これらの動向が北日本を中心とした気温の変動に影響を与える。

日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本付近ではスプレッドの大きい領域はない。

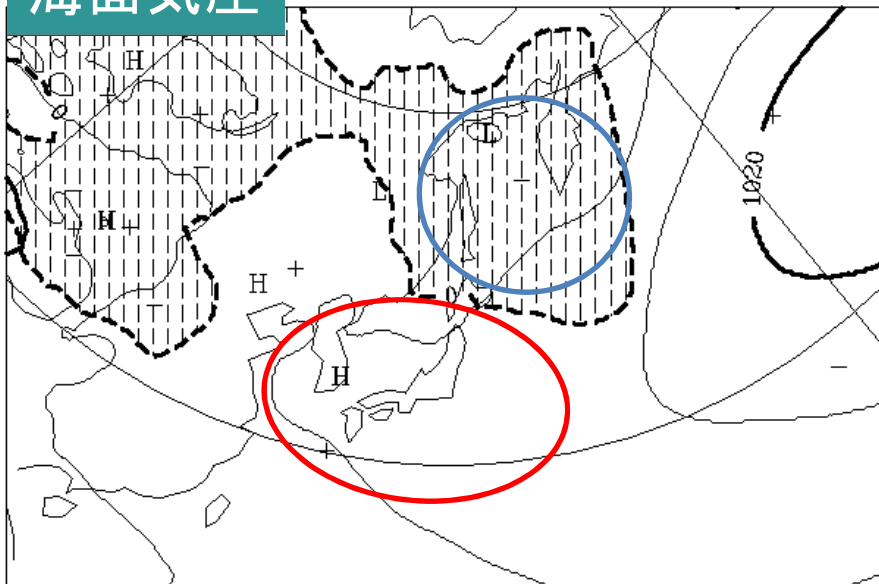
予報資料の解釈 1か月(8/16~9/12)

850hPa気温



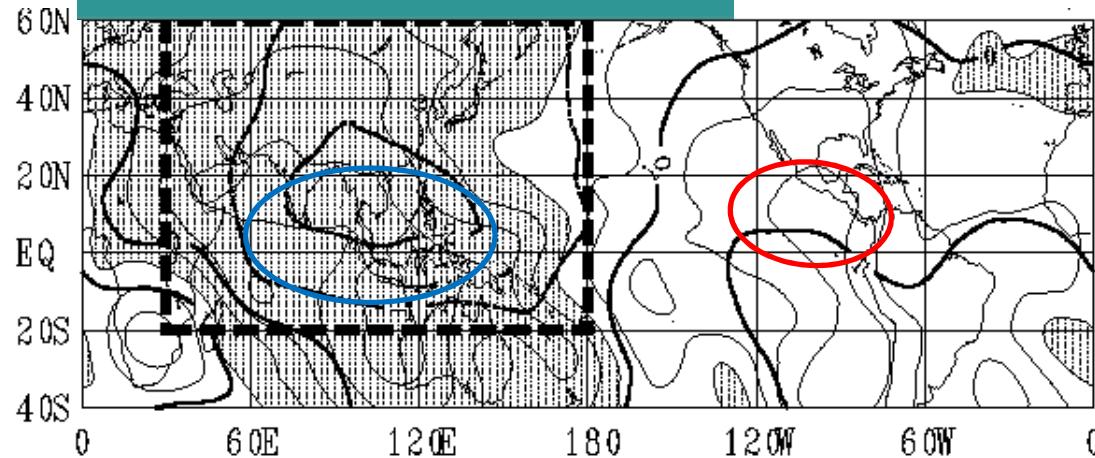
日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧



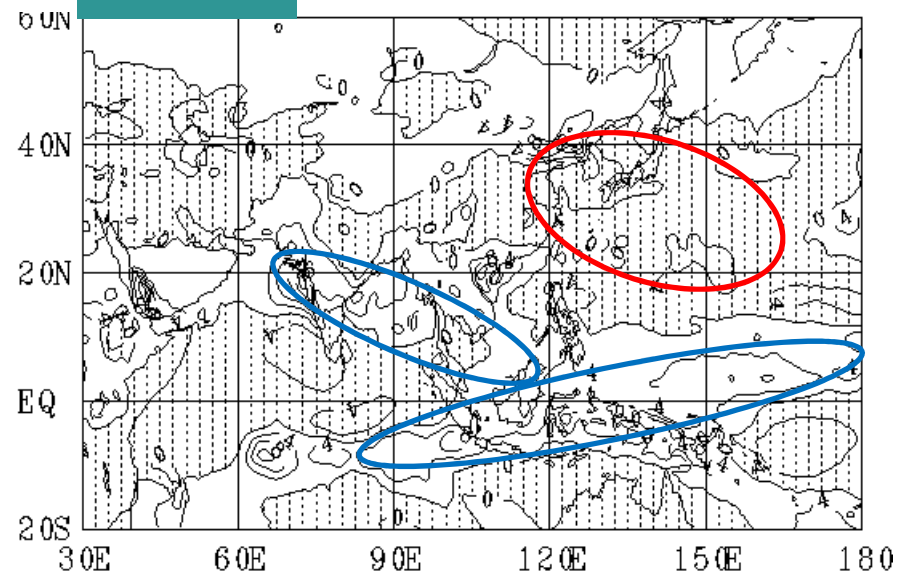
日本付近は正偏差で、高気圧に覆われやすい。日本の東海上に中心を持つ太平洋高気圧に覆われる時期と北・東日本を中心に移動性高気圧に覆われる時期がある見込み。一方、オホーツク海は低圧部となっており、北日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響を周期的に受ける見込み。

200hPa速度ポテンシャル



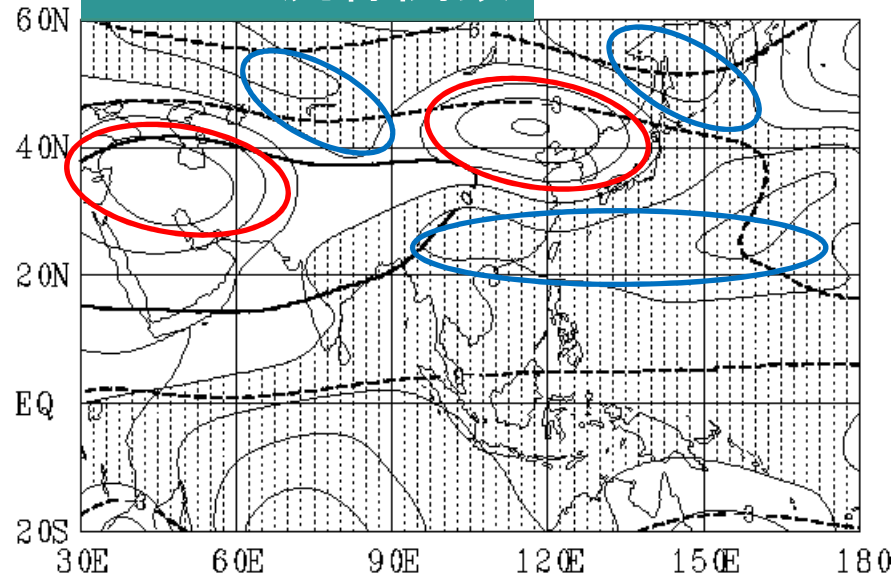
インド洋からインドネシア付近で上層発散偏差。太平洋熱帯域の東部で上層収束偏差。

降水量



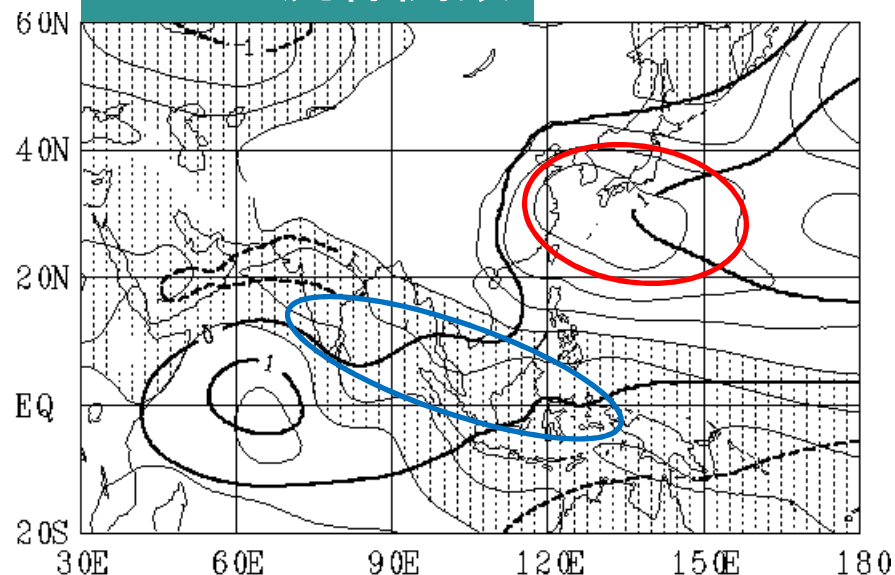
インドから南シナ海、インド洋熱帯域の南東部からニューギニア島の北方にかけて多雨偏差。日本付近から日本の南で少雨偏差。

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流に沿って波列が見られ、カザフスタン付近、オホーツク海付近で低気圧性循環偏差、中国東北区付近で高気圧性循環偏差。
華南から日本の南で低気圧性循環偏差。

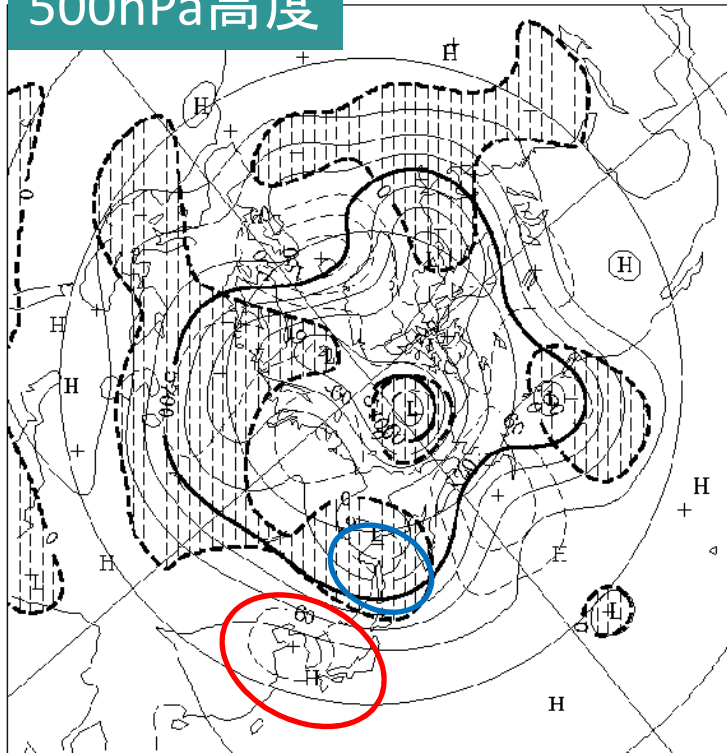
850hPa流線関数



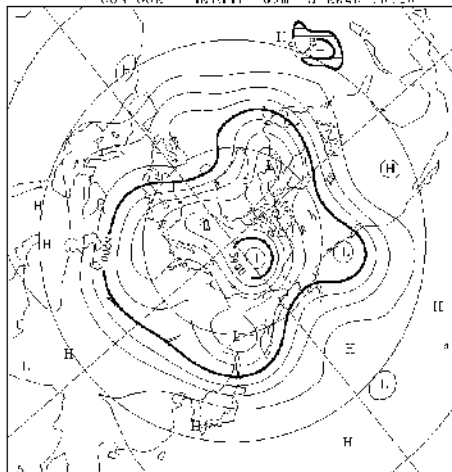
対流活動に対応して、インド付近からインドネシア付近で低気圧性循環偏差。
日本の南から本州付近は高気圧性循環偏差。本州付近は順圧的な高気圧性偏差。全国的に太平洋高気圧に覆われやすい。

予報資料の解釈 1週目(8/16~8/22)

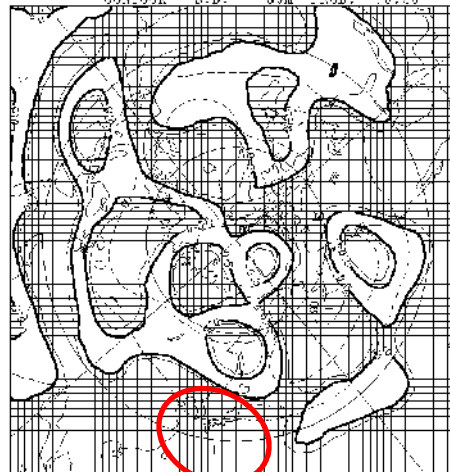
500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20



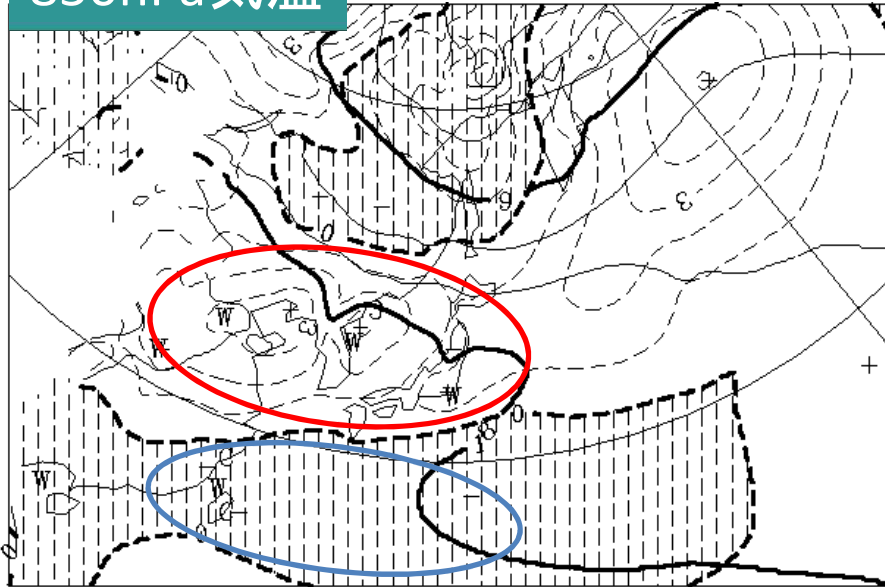
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



日本付近は正偏差で、高気圧に広く覆われる。一方、オホーツク海付近は気圧の谷で負偏差。

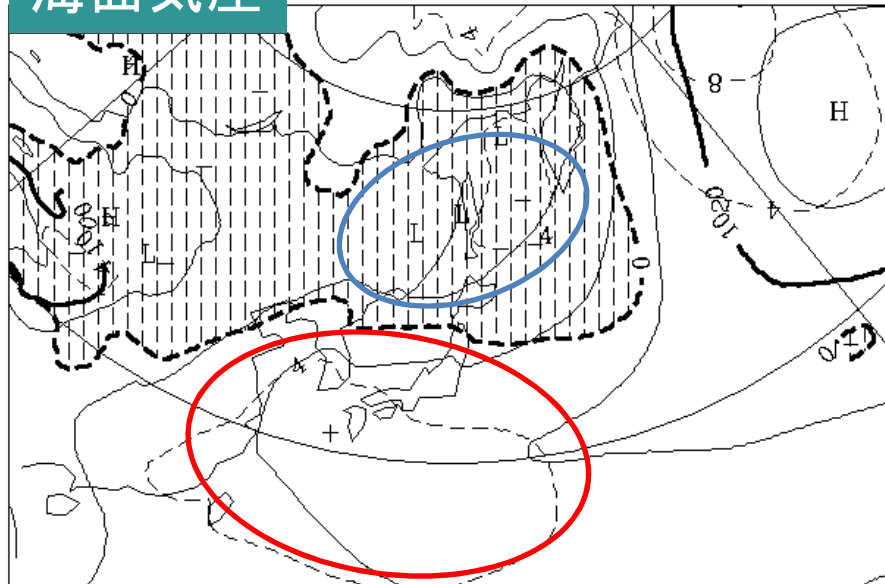
日本付近は北海道を除き、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。上流側を含めて、日本付近ではスプレッドの大きい領域はない。

850hPa気温



北・東・西日本は東西に広く伸びる正偏差域に覆われる。沖縄・奄美は負偏差だが平年からの隔たりは小さい。

海面気圧



本州以南は正偏差で、広く太平洋高気圧に覆われる。一方、沿海州からオホーツク海は低圧部で、北日本では日本海側中心に低気圧や前線の影響を受ける日もある。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 北日本太平洋側と東日本は、天気は数日の周期で変わりますが、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本は、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

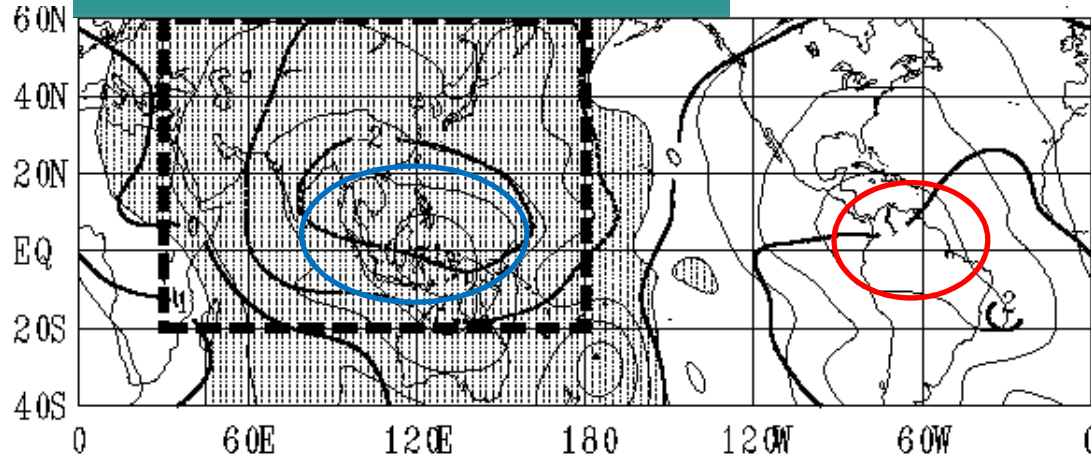
<気温>

太平洋高気圧が日本付近に張り出し、暖かい空気に覆われやすいため、全国で高温で、北・東・西日本でかなりの高温。

<天候>

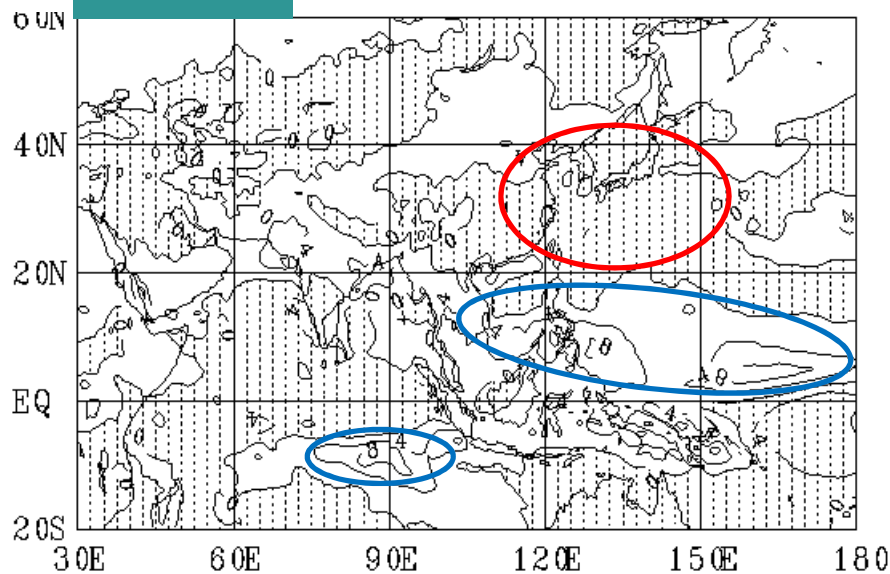
・全国的に、太平洋高気圧に覆われやすく、北日本太平洋側で少雨傾向・多照傾向、東日本で少雨・多照傾向、西日本で少雨・多照。沖縄・奄美で少雨・並照。北日本日本海側では低気圧や前線の影響を受ける日があり、平年程度。

200hPa速度ポテンシャル



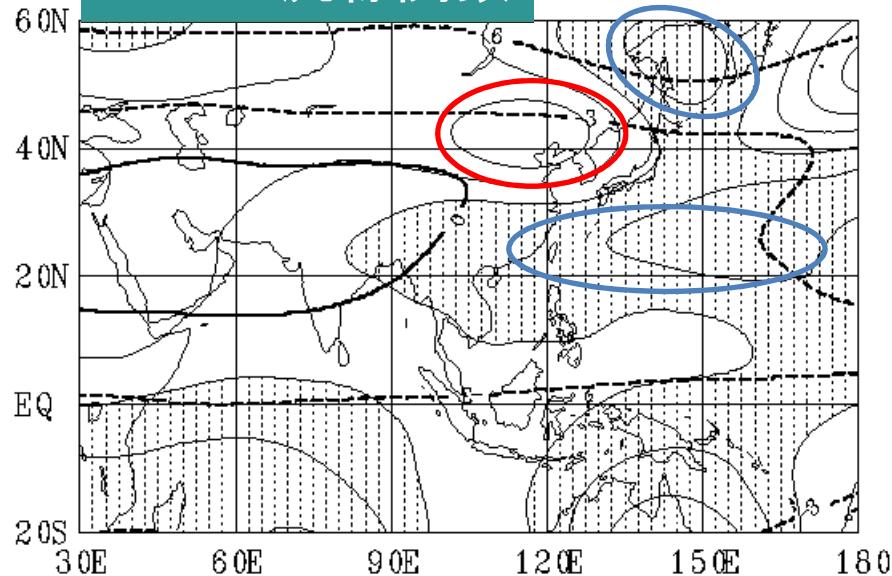
インドネシア付近で上層発散
偏差。南米で上層収束偏差。

降水量



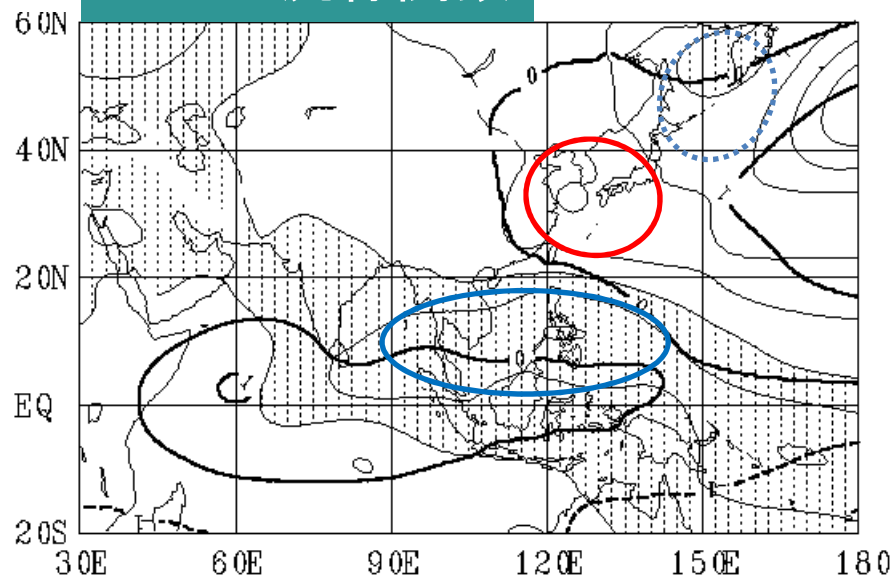
1週目に比べて、東南アジアで
対流活動が北上し、インド洋熱
帯域の南東部、フィリピン付近
からニューギニア島の北方海
上で多雨偏差。日本の南から
日本付近は1週目に引き続き
少雨偏差。

200hPa流線関数



1週目と同様、中国東北区付近で高気圧性循環偏差、オホーツク海付近で低気圧性循環偏差。華南から日本の南も低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

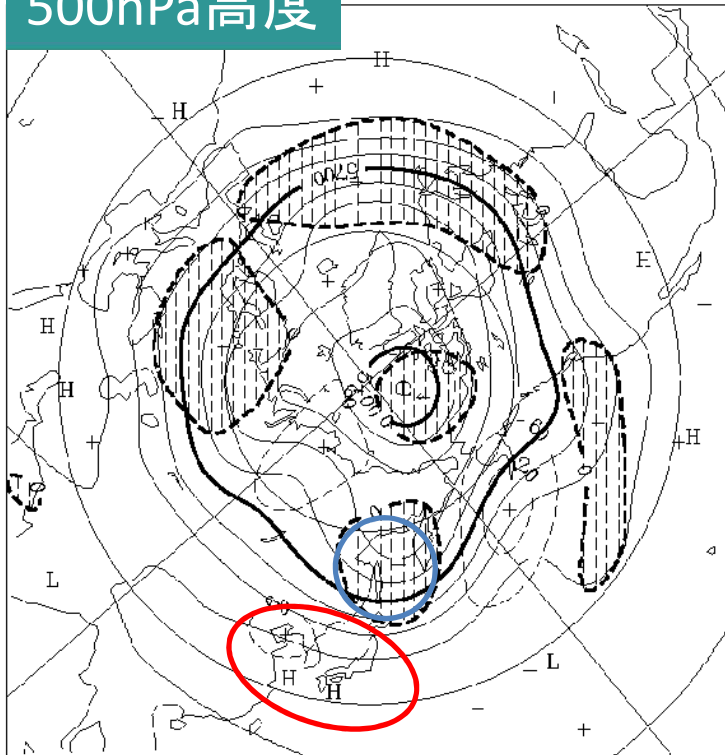


1週目より北上した対流活動に対応して、インドシナ半島からフィリピンの東を中心に低気圧性循環偏差。

日本の南から本州付近は高気圧性循環偏差。本州付近は順圧的な高気圧性偏差。沖縄・奄美付近の高気圧性循環偏差は対流活動の影響を受けて強まっていると考えられる。オホーツク海から日本の東で相対的な低気圧性循環偏差。

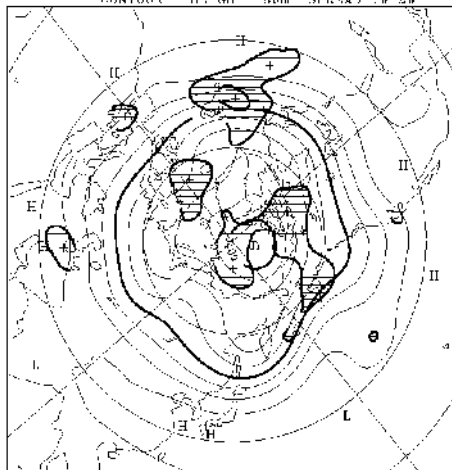
予報資料の解釈 2週目(8/23~8/29)

500hPa高度



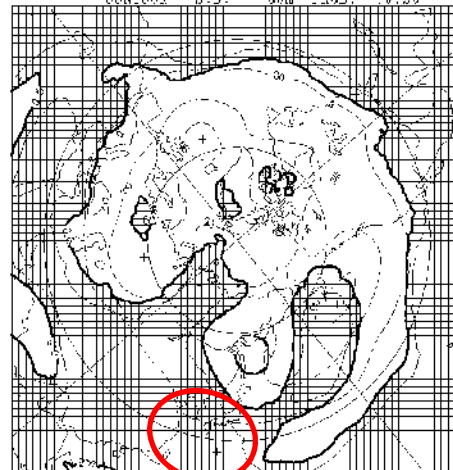
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 10 20



PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

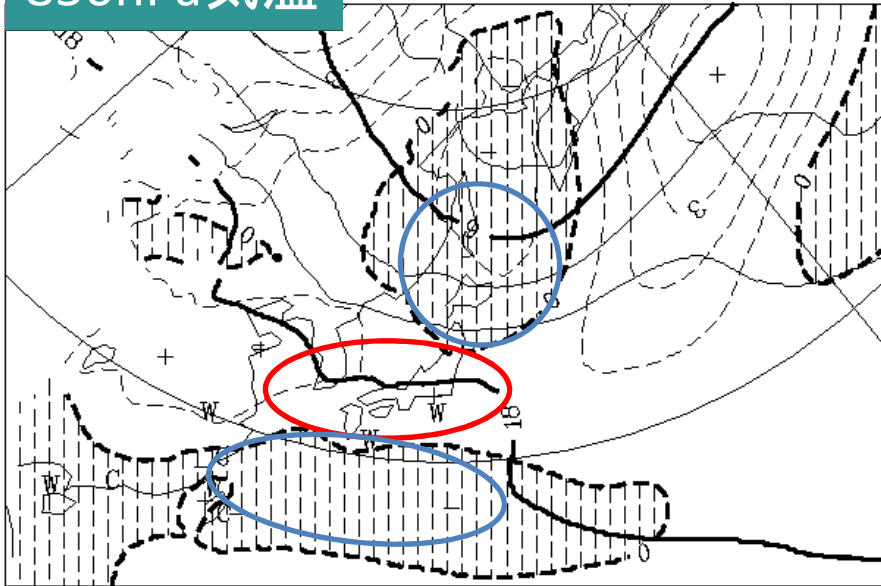
CONTOUR S.D. 30m 20% 10 20



日本付近は正偏差で、高気圧に広く覆われる。一方、オホーツク海付近の気圧の谷は1週目より日本の東でやや深まり、負偏差域が北海道の一部にかかる。

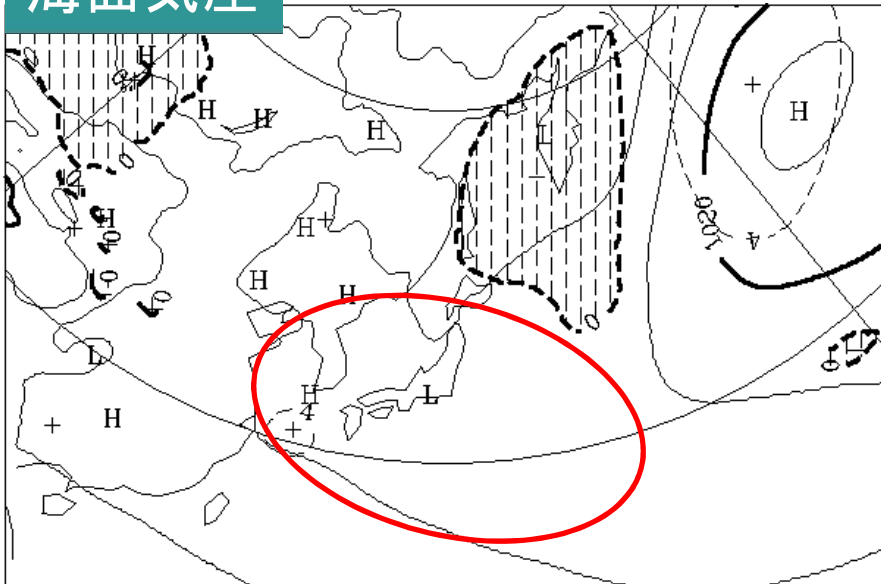
日本付近は北海道を除き、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。上流側を含めて、日本付近ではスプレッドの大きい領域はない。

850hPa気温



北日本は負偏差となるが、北日本近海の海面水温はかなり高く、地上付近の気温は下がりにくいと思込まれる。東・西日本は引き続き正偏差に覆われる。沖縄・奄美は負偏差だが平年からの隔たりは小さい。

海面気圧



日本付近は広く正偏差で、北・東・西日本は高気圧に覆われやすい。太平洋高気圧に覆われる時期と北・東日本中心に移動性高気圧に覆われる時期がある。沖縄・奄美では高気圧周辺の湿った空気の影響を受ける時期がある。

想定される天候

- ・ 北・東日本は、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本は、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

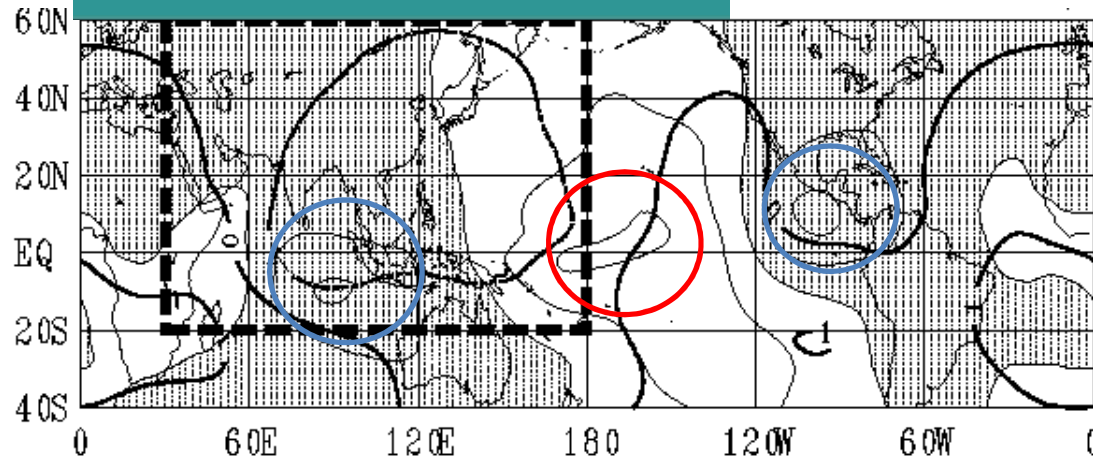
<気温>

北・東・西日本では、太平洋高気圧や移動性高気圧に覆われやすく、晴れて暖かい空気に覆われやすいため、かなりの高温の可能性がある。沖縄・奄美では、太平洋高気圧およびその周辺の暖かい空気に覆われやすいため、高温。

<天候>

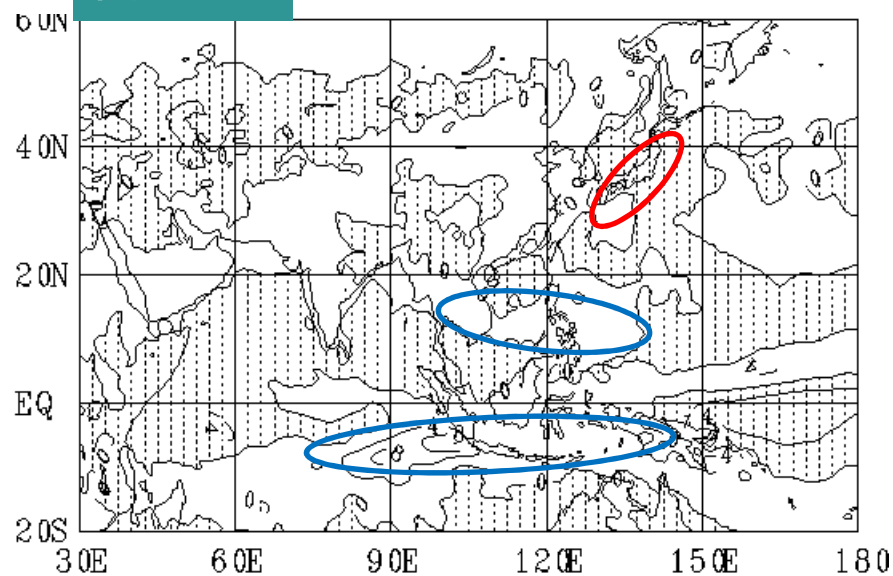
・ 北・東・西日本では高気圧に覆われやすく、北日本太平洋側と東・西日本で少雨傾向・多照傾向。北日本日本海側で多照傾向だが、低気圧や前線の降水も見込まれ、降水量は平年程度。沖縄・奄美は、高気圧の縁にあたり、湿った空気の影響を受ける時期もあり、降水量、日照時間とも平年程度。

200hPa速度ポテンシャル



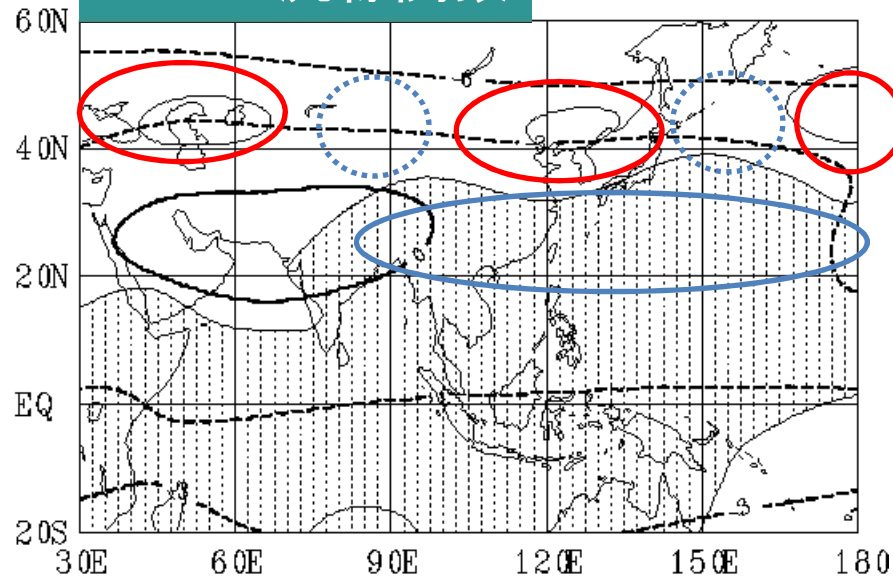
インド洋東部と太平洋赤道域の東部で上層発散偏差、太平洋赤道域の中部で上層収束偏差。

降水量



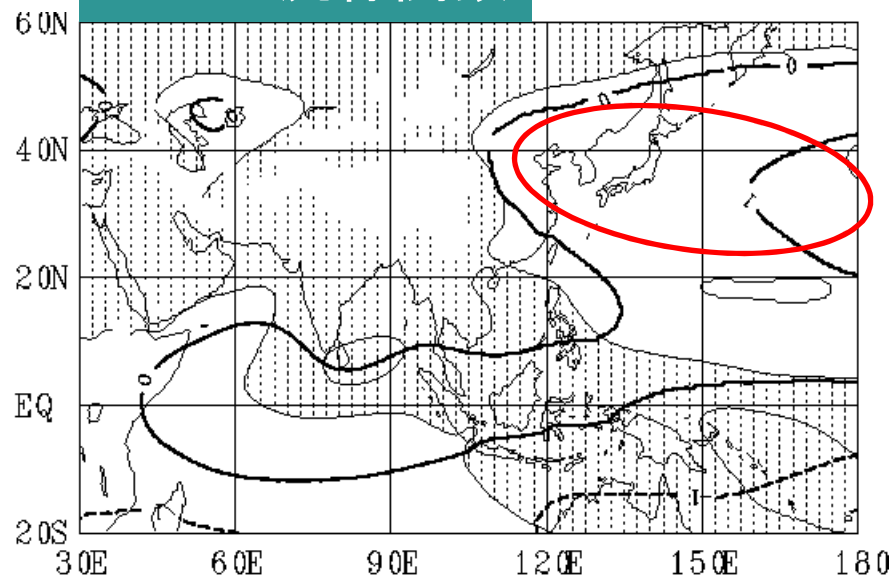
インド洋熱帯域の南東部からインドネシア付近で多雨偏差。フィリピン周辺も弱いながら、多雨偏差。本州付近は弱い少雨偏差。

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いで弱いながら波列パターンが見られる。沿海州付近を中心に高気圧性循環偏差。亜熱帯ジェット気流がユーラシア大陸東部から日本の東海上で北偏している。一方、華南から日本の南は低気圧性循環偏差。

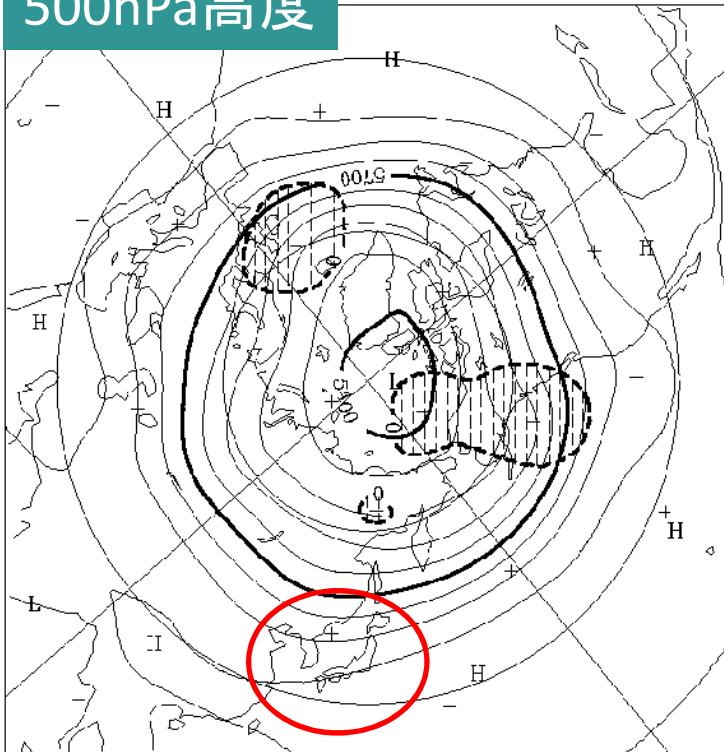
850hPa流線関数



日本付近は広く高気圧性循環偏差に覆われる。本州付近は順圧的な高気圧。

予報資料の解釈 3～4週目(8/30～9/12)

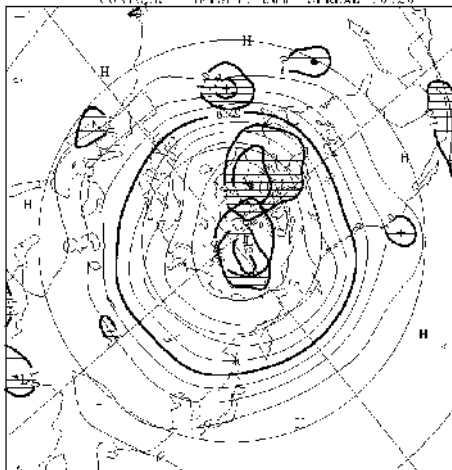
500hPa高度



北半球の中緯度帯は正偏差で、日本付近も正偏差に覆われる。

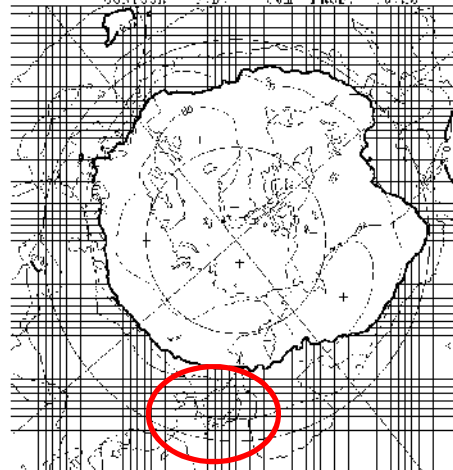
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



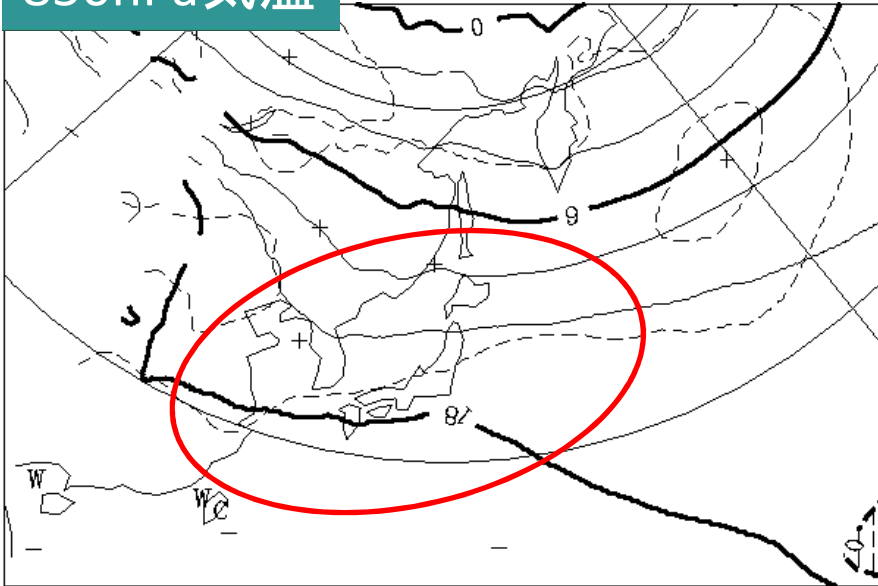
PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



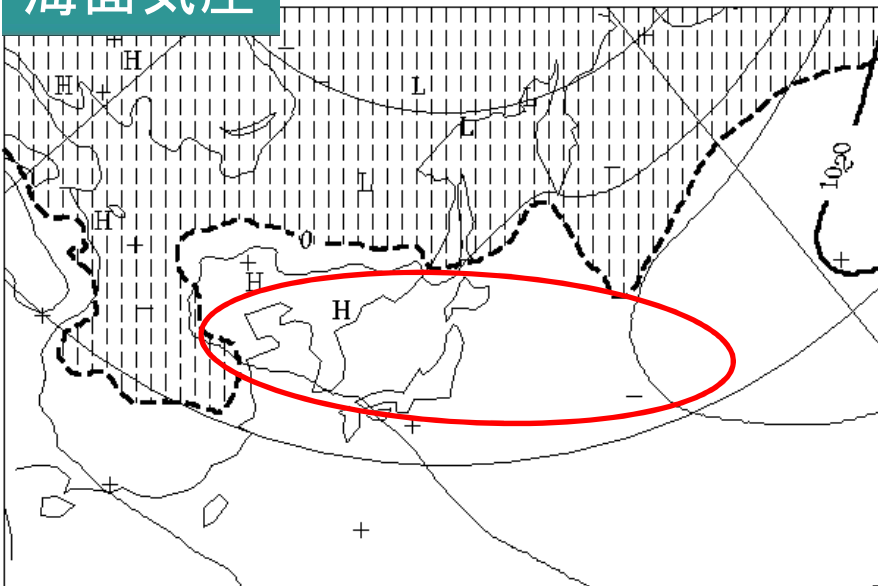
日本付近は、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本付近ではスプレッドの大きい領域はない。

850hPa気温



日本付近は、北日本を中心とした正偏差域に広く覆われる。

海面気圧



日本付近は広く正偏差で、東・西日本は高気圧に覆われやすい。太平洋高気圧に覆われる時期と北・東日本中心に移動性高気圧に覆われる時期がある。北日本は周期的に低気圧や前線の影響を受ける。沖縄・奄美では高気圧周辺の湿った空気の影響を受ける時期がある。

想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本は、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本は、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

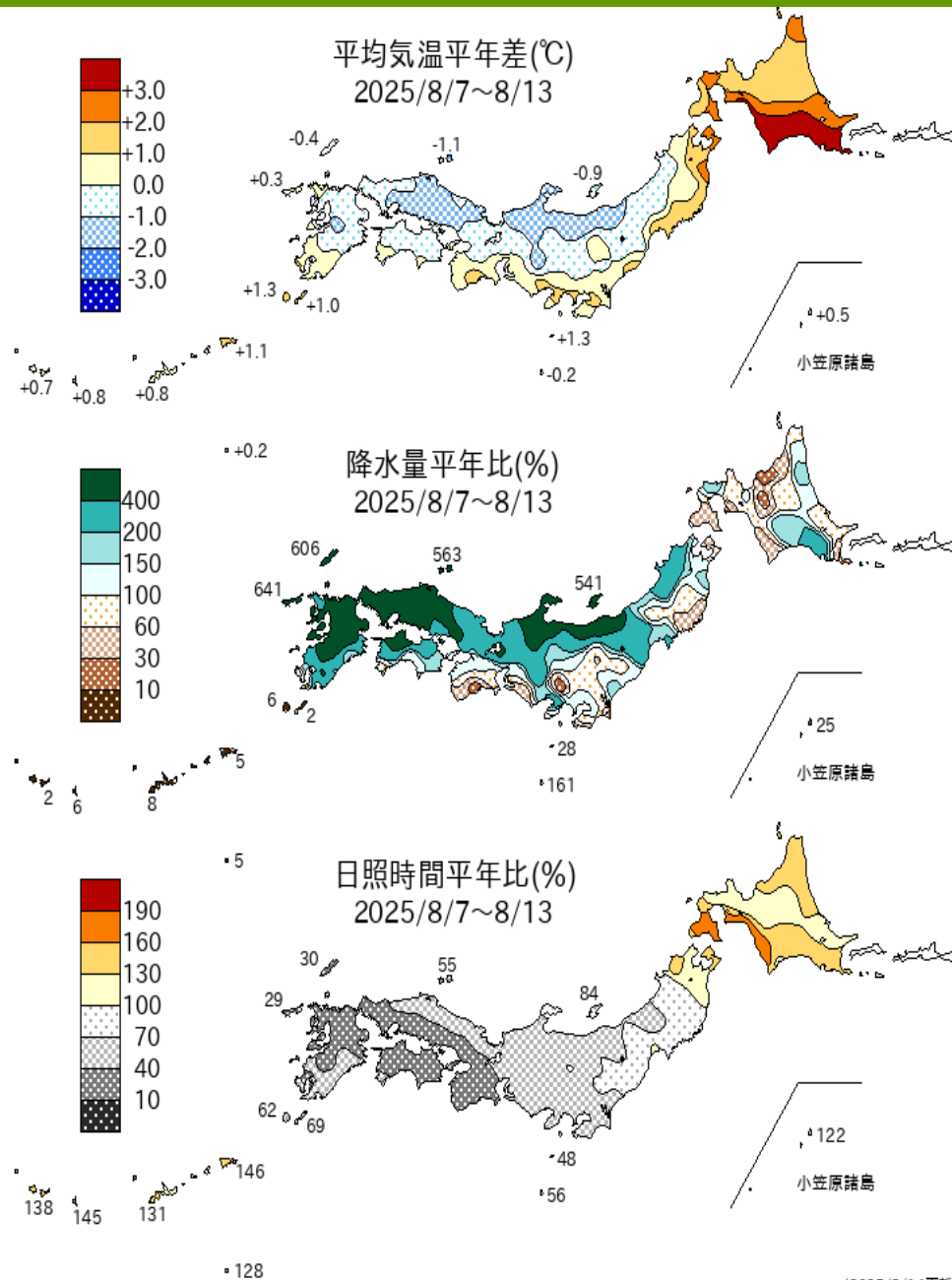
<気温>

北日本は高気圧周辺や低気圧前面の暖かい空気が流れ込みやすく、高温。東・西日本では太平洋高気圧や移動性高気圧に覆われやすく、晴れて暖かい空気に覆われやすいため、高温。沖縄・奄美では、太平洋高気圧およびその周辺の暖かい空気に覆われやすいため、高温。

<天候>

・ 東・西日本では高気圧に覆われやすく、多照傾向、降水量は平年程度。北日本は周期的に低気圧や前線の影響を受け、降水量、日照時間とも平年程度。
沖縄・奄美は、高気圧の縁にあたり、湿った空気の影響を受ける時期もあり、平年程度。

最近1週間の天候経過



最近1週間(8月7日~8月13日)は、北・東・西日本では、本州付近に停滞した前線や前線上の低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりました。東・西日本日本海側と九州南部を中心に、各地で線状降水帯が発生するなど、記録的な大雨となった所もありました。このため、降水量は西日本や東日本日本海側を中心に平年を大きく上回り、日照時間は平年を大きく下回った所が多くなりました。気温は、暖かい空気に覆われ、晴れ間のあった北日本や東日本太平洋側の一部で平年を上回りましたが、そのほかの地方は曇りや雨の日が続いたため、平年を下回りました。一方、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて、晴れた日が多かったため、気温と日照時間は平年を上回り、降水量は平年を下回りました。